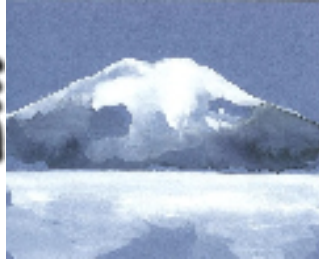


## 尾瀬ネットワーク通信

Vol 13. No. 4 2011年2月



目次

尾瀬ヶ原のシカ牧場化を危惧する ……1  
 移入植物(オランダガラシ)調査 ……2  
 笠ヶ岳の高山植物調査 ……2  
 尾瀬指導員養成講座研修に参加して…3  
 平成23年度活動計画(案) ……3  
 尾瀬の植物「オオバコ」 ……4

## 尾瀬ヶ原のシカ牧場化を危惧する

～シカ対策の遅れは尾瀬の自然に致命傷～

理事長 永島 勲

近年、全国各地の山岳地帯ではニホンジカの激増に伴う食害など、過度な自然環境への負荷増大が大きな問題となっている。尾瀬は湿原という特異な環境のため、シカの被害は極めて深刻である。

今回はネットワークの調査活動からみた尾瀬のニホンジカ問題を掘り下げてみたい。

## 深刻なシカ被害の実態

ネットワークでは平成12年度から10年間、6月と9月に尾瀬ヶ原でライトセンサス法によりシカの個体数の夜間調査を実施してきた。シカは着実に増加傾向を示し、最高は一晚で104頭を確認しこともあった。

被害は脆弱な湿原が一番深刻だ。平成20年度から大江湿原の18地点でニッコウキスゲの食害を6月と7月に枠取り法により定点調査を行っているが、新芽や花芽の被害が繰り返えされた結果、ヤナギランの丘分岐点から東は、木道の両側から

林縁に至るまでキスゲの花は全滅に近い状態だ。

湿原の踏み荒し・掘り起こし・ヌタ場(泥を浴びる場所)による泥炭層の破壊と裸地化。ミツガシワ・ニッコウキスゲ・リュウキンカ・ミズバショウ等、高山植物の食害も急速に拡大している。

上空から湿原を撮影した写真を観るとシカ道が縦横無尽に走っている。夜行性のシカを昼間は滅多に見ることは出来ないが、夜間には相当数のシカが湿原に侵入していることは想像に難くない。

正に夜の尾瀬ヶ原や大江湿原は「シカ牧場」の様相を呈しているのではないかと危惧する。

このままでは近い将来、シカの嗜好性植物の消失、不嗜好性植物の増加等により湿原の生態系は、壊滅的な影響を受けるものと思われる。

シカ増加の原因は、シカの天敵であるオオカミ

の絶滅、ハンターの減少、地球温暖化に伴う積雪の減少による生息域の拡大など、自然界における個体数調整機能の喪失によるものと言われている。いずれにしる人間の様々な活動が生態系のバランスを壊してしまったのは事実である。

## 後手後手のシカ対策

現在「尾瀬国立公園シカ管理方針」に基づき環境省をはじめ関係各県及び地元市町村が協働して①植生攪乱状況の調査、②移動経路の調査、③シカ柵の設置、④シカ捕獲などを実行中であるが、

後手後手の対策は否めず、その効果は極めて不十分である。

シカ柵は季節移動経路上となる奥鬼怒スーパー林道沿いに設置して、日光・足尾方面とのシカの移動を遮断しているが、これは対症療法的措置であって根本解決にはならない。

平成21年度からは、特別保護地区内において

銃や足くり罠により捕獲を行っているが、初年度の捕獲頭数はわずか14頭であった。

## 早急に防除対策の強化を

シカは「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律」によって捕獲が規制されてきたが、増え過ぎたニホンジカはもはや有害鳥獣と言わざるをえない。

湿原破壊の象徴としてアヤメ平が良く取り上げられるが、繁殖力の強いシカによる湿原の荒廃が加速的に拡大している現状を鑑みると、アヤメ平の二の舞にならないよう防除対策への予算の重点配分とシカの保護管理体制の早急な構築を強く望む。対策の遅れは植生復元に膨大な時間と費用がかかることはアヤメ平の例を見るまでもなく明白だ。個体数調整の手段として捕獲に重点を置いた防除対策の強化は一刻の猶予も許されない。



【大清水付近のシカ柵(高さ2.4m、長さ約5Km)】

# 活 動 報 告

## 移入植物（オランダガラシ）調査

～地球温暖化影響調査～

担当理事 永島 勲

調査日 平成22年8月27日(金)～28日(土)、  
晴、1泊2日

場 所 下田代（高菜っ堀）及び白砂湿原

参加者 磯部義孝、岩本光燮、寺口信二、永島勲

### 1. 下田代のオランダガラシ

見晴十字路から温泉小屋へ向かう途中に東電小屋への分岐点がある。この分岐点から300mほど赤田代へ行った小さな沢（通称：高菜っ堀）に移入植物（外来種）のオランダガラシの大群落がある（写真を参照）。

前年も8月下旬に観察したが、同様にオランダガラシの大群落が見られ、今年よりその規模は大きく水面が見えないほどびっしりと繁茂していた。

昨年のオランダガラシが前年より少かかったのは、推測であるが大雨により下流域に流されてしまった可能性が考えられる。



高菜っ堀の「オランダガラシ」の大群落

(8月27日撮影)

橋から下流域は樹木の枝やヨシの繁茂に加え流れが蛇行しているため、オランダガラシがどこまでその群落を広げているのか確認することは出来なかった。

高菜っ堀から直線で400mほど西はヨッピー川が流れているので、豪雨の時などにヨッピー川にも流され、繁殖地を拡大している可能性が考えられる。

地元の尾瀬関係者の話では、以前山小屋の食卓に提供するために持ち込んだものが、何らかの事由で尾瀬の湿原に侵入したようである。

### 2. 白砂湿原のオランダガラシ

白砂湿原の白砂峠寄りの木道北側の「浅い緩やかな流れ」にオランダガラシの緑の塊が大小10株ほど観察できる。こんな山峡の小湿原にどこから、いつ頃侵入してきたのか、現時点では不明である。池塘は水深も深く止水のためか、オランダガラシの株は見られなかった。

本来尾瀬に生息していなかった外来種のオランダガラシが繁茂することは清冽な水域に生育する希少種などと競合し、その植物を駆逐する恐れがある。これ以上オランダガラシの生息地を拡散させないために、早急に防除することが必要である。

【参考資料】

オランダガラシ：水中または湿地に生育するアブラナ科、オランダガラシ属の多年草

原産地：ヨーロッパから中央アジア

日本には明治の初めに在留外国人用の野菜として導入された。繁殖力はきわめて旺盛で切った茎は水に入れておけば容易に発根するうえ、成長が速い。また、耐寒性も強く冷涼な気候を好むため、尾瀬の湿原や水辺の環境は繁茂に適している。

## 笠ヶ岳の高山植物調査

～地球温暖化影響調査～

担当理事 永島 勲

調査日 平成22年9月11日(土)、  
晴、1泊2日（前泊地：鳩待山荘）

場 所 笠ヶ岳及び小笠

参加者 伊藤アケミ、亀山信吉、小鮎守、坂本敏子、清水博之、永島勲、松澤登

笠ヶ岳は至仏山の南西約3kmに位置し、至仏山と同様に蛇紋岩質の土壌で、その植生は至仏山に類似していると言われている。

今回は小笠と笠ヶ岳の2カ所で地球温暖化影響調査の一環として1平方メートルの枠取法（コドラート法）により高山植物調査（第1回）を実施した。

### 1. 小笠南面（標高1950m）

小笠山頂直下の南斜面をトラバースする登山道脇の草地で調査を実施した。

No.	植物名	数	備考
1	チングルマ	60	32.8% 穂（花茎）
2	コイワカガミ	56	30.6%
3	イワショウブ	19	10.4%
4	シブツノガリヤス	18	穂（花茎）
5	ハナニガナ	17	
6	ササ	10	

7	ジョウシュウ オニアザミ	2	
8	コメツツジ	1	
計		183	

## 2. 笠ヶ岳東肩（標高 2000m）

笠ヶ岳山頂直下の南斜面をトラバースする登山道の東肩の草地で調査を実施した。

No.	植物名	数	備考
1	イワイチョウ	66	31.7%
2	キンコウカ	28	
3	チングルマ	18	
4	イワカガミ	17	
5	ハナニガナ	17	
6	ササ	16	
7	シブツノガリ ヤス	11	穂（花茎）
8	ニッコウキス ゲ	10	

9	ヒメシヤクナ ゲ	8	
10	ハクサンイチ ゲ	6	
11	ウラジロヨウ ラク	5	
12	イワショウブ	3	
13	タカネシオガ マ	2	
14	コメツツジ	1	
計		208	

笠ヶ岳の山頂付近は蛇紋岩が露出し、森林限界はおおよそ1,950メートルで高山植物も多い。山頂直下の南斜面は夏季にはお花畑となる。

両地点では植生にかなり相違が見られた。小笠は植物の種類が8種類と少ないのに対して笠ヶ岳では14種類と豊富であった。

今後、調査した両地点で植生にどのような変化が見られるのか定点調査を行いたい。

## 尾瀬指導員養成講座研修に参加して

指導員 寺口信二

実施日 平成22年8月27日～29日

場所 尾瀬ヶ原、尾瀬沼

宿泊した見晴の山小屋。食堂に向かう廊下に展示してある写真にビックリした。昭和三十年代、山小屋の経営者父子が池塘の中で泳いでいる。浮島に乗り、棹を差して前へ動かそうとしている。五十年前とはいえ、楽しそうな笑顔が痛い。当時の環境意識はあまりにも無防備で楽天的だ。これでは尾瀬の自然が痛まない訳がない。

現地視察では、尾瀬沼近くの山小屋裏の古いゴミ捨て場を見て回り、昭和四十年代に捨てられたとみられるビールや清涼飲料の空き缶、空き瓶の

山に驚いた。大勢のハイカーが長年にわたり捨てたゴミは負の遺産そのもの。未だに片付けられていない。関係者が持ち込んだというクレソンが生い茂っている沢も忘れられない光景だ。

アヤメ平や至仏山東面道の植生復元、ニホンジカの食害、外来植物の移入、登山者のマナーの問題――。

尾瀬の自然は、こうした問題を抱えながら、足を踏み入れた人々に等しく光り輝く。山小屋の若い主人はこう言った。「湿原に水平に浮かぶ360度の虹を見たことがある。天使の頭上の輪っかのような不思議な虹。ここで暮らしていると、考えられない光景を見ることができる」と。そんな奇跡の瞬間を求め、また尾瀬を歩きたい。

## 平成23年度活動計画（案）

### 1. 福島 第1回目活動

\* 5月4日（みどりの日）

\* 今冬の残雪量調査（大江湿原・4カ所）と元長蔵小屋裏の尾瀬沼岸边に捨てられた空き缶の回収を実施する。

### 2. 福島 第2回目活動

\* 5月28日（土）～29日（日）

\* バス添乗解説・入山指導・資金カンパ等

\* 28日午後、「尾瀬自然ガイド実践」及びミズバショウ等の植物観察会

### 3. 福島 第3回目活動

\* 6月11日（土）～12日（日）

\* バス添乗解説・入山指導・資金カンパ等

\* 12日午後1時から日本シカ食害による「第1回大江湿原ニッコウキスゲ生育状況調査」を実施

施・木道沿の発芽状況の定点調査（18カ所）

### 4. 群馬 第1回目活動

\* 6月18日（土）

\* 入山指導、清掃活動及び地球温暖化影響調査の一環としての「尾瀬のチョウ観察」を行う。

### 5. 福島 第4回目活動

\* 7月16日（土）～17日（日）

\* バス添乗解説・入山指導・資金カンパ等

\* 16日午後2時から日本シカ食害による「第2回大江湿原ニッコウキスゲ開花状況調査」実施。

\* 17日午後、「尾瀬自然ガイド実践」→当日ガイドを受けたい個人・団体等を募集して実践または自然観察会。

### 6. 群馬 第2回目活動

\* 7月24日（日）

\* 入山指導、清掃活動及び「尾瀬のチョウ観察」

**7. 群馬 自然観察会**

\* 8月6日 (土)

\* 鳩待峠から笠ヶ岳までの登山道の状況と植生の調査を行う。

**8. 尾瀬自然保護指導員養成講座**

\* 8月26日 (金) ~ 28日 (日)

\* 現地研修コース：戸倉→鳩待峠→山の鼻→尾瀬ヶ原→下田代十字路→白砂峠→沼尻→大江湿原→ビジターセンター→三平峠→大清水→戸倉

**9. 福島 第5回目活動**

\* 9月3日 (土) ~ 4日 (日)

\* 3日夜、260年伝承されている「桜枝岐農村歌舞伎の夕べ」の上演を鑑賞する。

\* 4日、バス添乗解説

**10. 特別研修**

\* 9月17日(土)~18日 (日)

\* 「奥只見のブナ林を探る」→林野庁指定「郷土の森」で国内最大級の規模を誇る900haのブナ林を観察学習する。

**11. 福島 第6回目活動**

\* 10月8日 (土) ~ 9日 (日)

\* バス添乗解説・入山指導・資金カンパ等

\* 9日正午から「尾瀬自然ガイド実践」を行う。

**12. 群馬 第3回目活動**

\* 10月15日 (土)

\* 入山指導、清掃活動及び「尾瀬のチョウ観察」

**~尾瀬自然講座~**

**尾瀬の植物 (7)**

尾瀬では最近、里山植物と帰化植物の侵入により、本来の山地植物の生態系を変えてしまうのではないかと懸念されています。登山道や山小屋周辺に多く見られるオオバコやイネ科の雑草は、最初に侵入してきた人里植物です。今や、標高2000mを超える高山でも確認されています。

今回は、このオオバコの生態を追ってみました。

**オオバコ (オオバコ科 多年草)**

日本列島全域に分布し、グラウンド、農道などの人為的影響の及ぶところに生育する典型的な人里植物です。葉には並行する5本の丈夫な脈があり、その間を支脈が網目のように走り、踏みにじられても容易にちぎれたり、破れたりはありません。根を放射状に広げ、大地にしっかりとしがみついで他の植物を寄せつけません。

春から秋にかけて10~15cm程度のしなやかな花茎を伸ばし、穂状に白い小さな花をつけます。まず雌しべが先熟し、次に雄しべが花粉を出します。つまり、オオバコは雌性先熟であり、近親交配を避けるための進化した機能を持ち合わせているのです。果実は熟して踏まれると沢山の種子がこぼれ、水に濡れると表面からゼリー状の粘液を分泌し、その接着力で靴底やタイヤ、動物等にくっついて運ばれて行きます。踏まれることを巧みに利用して繁殖していくのです。このように逞しいオオバコですが、ロゼット状で背が低いため、日光が遮られてしまうと他の植物との共存はできません。したがって、競争相手のない人や車に踏まれる場所に適応していったのです。

和名は大葉子で大きな広い葉を持っている子という意味で、漢名の車前草 (しゃぜんそう) は車の通るような道に多いということです。オ



オオバコの生態を知ることにより、なぜ、登山道や山小屋周辺に多いのか理解できます。

参考資料：したたかな植物 (SCC)、牧野富太郎 植物記2 (あかね書房)、植物の世界 (ニュートンプレス)  
(指導員：深山美子)

**★★ 定期総会開催の案内 ★★**

\* 日時 平成23年4月16日(土) 13:00~17:00

\* 場所 大宮ソニックシティビル 902号室

**★★ 会報誌編集委員からのお願い ★★**

\* 会報誌への原稿投稿をお願いします。

\* 原稿締切：発行前月の10日

**NPO 尾瀬自然保護ネットワーク**

Vol.13 No.4号 2011年2月20日 発行

発行人：永島 勲

編集担当：鎮目 安康

(1)本部事務所  
〒969-0404  
福島県岩瀬郡鏡石町旭町19 円谷方  
電話・FAX 0248-94-5003

(2)群馬支部  
〒370-0001  
群馬県高崎市中尾町762-16 清水方  
電話 027-361-8055

(3)事務局  
〒263-0051  
千葉市稲毛区園生町1223-11、D-307 前田方  
電話 043-252-2604

Web : [http://www.geocities.jp/oze\\_net/](http://www.geocities.jp/oze_net/)